



令和4年7月1日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（6月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和4年6月分）

1. 木城町教育委員会との連携協力に関する協定締結式を実施
2. 在福岡アメリカ領事館首席領事が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義
3. ミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」を実施
4. 公開講座「ミツバチの世界を知ろう」を実施
5. 公開講座「牧水をよむ」を実施
6. B-JET 及び B-MEET の事業における産学連携に関する協定および覚書の締結式を実施
7. 第 84 回宮崎大学イブニングセミナーを開催
8. 「道の駅つの」と宮崎大学生とのコラボ商品『シャインマスカットキャンディー』が
限定販売中
9. 宮崎大学工学部同窓会が宮崎大学へ100万円を寄附
10. 「世界一の九州がはじまる！」で川末教授が紹介されます
11. 在福岡アメリカ領事館広報領事のユキ・近藤・シャー氏が基礎教育科目
「現代アメリカ入門」で講義
12. 「次世代研究者支援室」のサイトを公開しました
13. ようこそ後輩の皆さん大学生が母校の高校生に大学の魅力を紹介
—鹿児島県立曾於高等学校—
14. 特定サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式を実施
15. 看護学科1年生30人が西米良村で実習
16. 宮大生が企画・編集した「キャラいも」プロモーション動画を公開
17. 在福岡アメリカ領事館政治・経済領事のカサリン・ラファエロ氏が基礎教育科目
「現代アメリカ入門」で講義
18. 宮崎大学履修証明プログラム「B-JET Advanced Course」に留学中のバングラデシュ
ICT 技術者の8名が宮崎市長を表敬訪問

1. 木城町教育委員会との連携協力に関する協定締結式を実施

宮崎大学教育学部・大学院教育学研究科は令和4年5月19日、木城町教育委員会と連携協力に関する協定を締結しました。同協定は、令和5年度に開校する義務教育学校「みどりの杜 木城学園」の教育課程を本学部・研究科と連携し作成することや、本学の学生を同校で受け入れてもらい、「教科担任体験」を行うことで将来の宮崎県や木城町の教育を担う教員を育成することを目的として締結されました。



同締結式は木城町役場にて行われ、両機関の関係者立ち会いの下、教育学部の藤井良宜学部長と木城町教育委員会の恵利修二教育長が協定書に調印した。式では、藤井学部長が「教育学部では小中一貫教育をテーマとして様々な研究を進めてきたが、今回、木城町で義務教育学校を設置されるということで、これまでの成果を活かせればと思い、協定を結ばせてもらった。研究の場、そして私たちの学びの場として木城町を活用させていただきたい。」、続いて恵利教育長が「義務教育9年間の枠組みの中で、子どもの学びや育ちの連続性を保証した教育を推進していきたい。宮崎大学には特に小中一貫教育の在り方についてのご指導をお願いしたい。」と、それぞれの立場から連携協力に対する考えを述べました。

2. 在福岡アメリカ領事館首席領事が 基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義

令和4年5月25日(水)、基礎教育科目『現代アメリカ入門』の一環で、在福岡アメリカ領事館首席領事のジョン・C・テイラー氏が宮崎大学を訪問し、学生約60人に講義しました。



テイラー首席領事は、独立戦争時の国際関係等を解説しつつ、1787年の憲法制定会議で決まった選挙システムが、2016年の大統領選挙にも大きな影響を与えたことなどを紹介し、「現代と歴史は関連しており、現代社会を深く理解するには歴史を学ぶ必要がある」と学生に訴えかけました。学生からは、「コロナ渦で海外への興味が薄れていたが、『現代アメリカ入門』の一連の講義を通してアメリカ・海外に関するニュースに自然に興味を持つようになった。テイラー首席領事からアメリカの歴史や外交官としてのご経験を聴いて、いつか多文化共生社会のアメリカで刺激を得ながら仕事をしてみたいと思った」との感想があり、米国の歴史と現代のアメリカとの関わりについて理解を深めていました。

3. ミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」を実施

令和4年5月27日（金）から、対面形式とオンライン形式を交えたハイブリッド形式でミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」を10回シリーズで実施しています。

本講座は、少子高齢化や事業承継問題など、地域が抱える課題が多様化するとともに、地域において分野を超えたノウハウの共有・連携などの重要性が高まっていることを背景に、神奈川県理事（いのち・未来戦略担当）を務める宮崎県都城市出身の脇雅昭氏が講師・コーディネーターとなり、宮崎のさらなる活性化に向けて議論を深めていくことを目的としており、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。



第1回目は、「ガイダンス・行政編」と題して、本講座のコーディネーターでもある脇氏本人が講師を務め、講座のガイダンスと地域において重要な役割を担う行政の持つ可能性についてお話しいただきました。また、特別ゲストとして、宮崎市役所の島中翼氏と高千穂町役場の田崎友教氏をお招きし、それぞれ青島と高千穂町の取組についてご紹介いただき、地域デザイン棟会場とオンライン形式を含めて70名以上の方に参加いただきました。

4. 公開講座「ミツバチの世界を知ろう」を実施

令和4年5月28日（土）、宮崎大学農学部田野フィールドにて、小学生親子向けの公開講座「ミツバチの世界を知ろう～ミツバチの一生とハチミツができるまで～」を実施し、親子10組29名に参加いただきました。

本講座では、農学部田野フィールド内にてミツバチの巣箱を設置管理する養蜂家の岡氏が講師となり、ミツバチの生態や人間との関係、ミツバチの生きる環境、養蜂家の仕事について小学生編と大人編に分けて講義を行いました。教室にはガラス張りの観察箱が用意され、女王蜂、雄蜂と働き蜂の大きさの違いや、普段見られないミツバチの巣箱内の様子を観察しました。また、巣箱に触ってその作りを確認するなど、親子ともに興味津々で多くの質問をいただきました。



参加者からは、「初めて女王蜂を見た、ミツバチのおうちづくりができて楽しかった」、「自然の中で親子で楽しく活動できて良かった」「3世代で参加した。環境に対する思いを共有してこれからの生活に活かしたい」などの感想が寄せられました。

5. 公開講座「牧水をよむ」を実施

令和4年5月28日（土）、宮崎大学まちなかキャンパス（宮崎市若草通りアーケード内）において公開講座「牧水をよむ」を開催し、17名が受講しました。全4回シリーズで実施する本講座の初回は、教育学部の中村佳文教授と宮崎が全国に誇る歌人であり、牧水研究第一人者である伊藤一彦氏が講師を務め、受講者は「なぜ第一歌集に名歌



とされる歌が多いのか」を学んでいただき、海の聲の「あくがれていく」を中心とした牧水名歌三選等についても丁寧に説明され、受講者は生きることの根源的な意義や自然との親和性などの近現代に生きる上での学びを感じ取っていました

6. B-JET 及び B-MEET の事業における産学連携に関する協定および覚書の締結式を実施

令和4年5月30日（月）、宮崎大学、BJIT Group（東京、バングラデシュ・ダッカ）、グローバルギークス株式会社（BJIT Group）、株式会社 B&M（宮崎市）は、バングラデシュの高度外国人 ICT 人材を日本そして宮崎へ導入する「外国人 ICT 技術者人材育成プログラム：B-JET



（Bangladesh-Japan ICT Engineers` Training Program）」および JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）「バングラデシュ国 宮崎ーバングラデシュ ICT 人材育成事業：B-MEET（Bangladesh-Miyazaki ICT Engineers` Educational Training）」（代表：宮崎市）の各事業における連携事業体として、各々の資源・経験を活用した協働を推進することを目的として、協定ならびに覚書の締結式を実施しました。

B-JET は、JICA が 2017-2020 年に実施したバングラデシュにおける日本市場向け高度 ICT 人材育成事業であり、宮崎大学も企画から参画し、日本語教育等で連携しました。B-JET を修了したバングラデシュ人 ICT 技術者 186 名が日本へ就職し、うち 53 名が宮崎大学への留学を経て宮崎で就職しており、産官学連携高度 ICT 人材導入事業「宮崎ーバングラ

デシュ・モデル」(2017-2021)として、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が自治体に向けて発行した資料「地方創生に資する地方公共団体の外国人材受入関連施策等について」(2022年3月16日付)においても、クローズアップされるなど、全国的にも注目されている事業です。

7. 第84回宮崎大学イブニングセミナーを開催

2022年5月31日(火)、第84回目となる宮崎大学イブニングセミナーを、Zoomを利用したオンライン形式で開催し、87人が参加しました。

本セミナーは、本学各部局に在籍する研究者が、各分野での研究内容やその研究成果等を理解し、協働した教育・研究等を実施する契機とするとともに、地域の皆様と本学の知的資源を共有し、地域社会との連携を一層深めることを目的に実施するもので、2004年3月に第1回目が開催されていて、今年は18年目を迎えます。

今回は、「宮崎大学の共同研究が拓くSDGsへの取り組み～エネルギーをみんなに、そしてクリーンに～」と題して、工学部と農学部から3名の教員が、それぞれが進める研究分野の紹介を行いました。



8. 「道の駅つの」と宮崎大学生とのコラボ商品『シャインマスカットキャンディー』が限定販売中

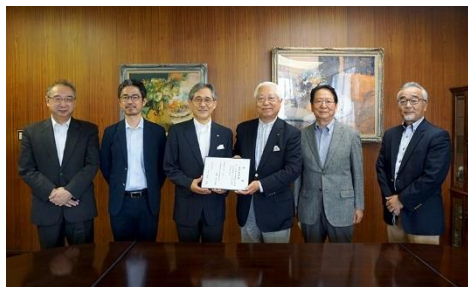
株式会社都農まちおこし屋と宮崎大学生とのコラボ商品『シャインマスカットキャンディー』が「道の駅つの」で限定販売中です。

この商品は、地域資源創成学部4年生の伊藤保奈美さんと原口智衣さんが、2021年2月から1ヶ月間に渡り取り組んだインターンシップ中の提案をもとに2022年5月に商品化されたものです。インターンシップでは「コロナ禍で変化する消費者ニーズに応える自家需要の商品企画」をテーマに、接客業務のほか、道の駅を訪れたお客様へインタビュー形式でアンケートを実施。100名を超えるお客様の生の声を集計・分析した結果、スイーツや都農の特産品を使った商品を望む声が多いことを踏まえて、マスカットキャンディーの商品提案に至りました。



9. 宮崎大学工学部同窓会が宮崎大学へ100万円を寄附

令和4年6月3日（金）、宮崎大学工学部同窓会から宮崎大学基金へ100万円の寄附を受け、本学学長室で寄附目録贈呈式を実施しました。贈呈式では、工学部同窓会の井上康雄会長から「工学部学生の教育活動並びに学生生活の更なる充実のための支援を目的に宮崎大学基金に寄付をさせて



頂きたい」と述べられ、寄附金目録が贈呈されました。これを受けて、鮫島学長から「学生の支えになるよう有意義に活用させていただきます」と謝辞を述べました。宮崎大学では、工学部同窓会をはじめとする各学部の同窓会等と緊密に連携しながら、学生の教育・研究および福利厚生への支援を行うとともに、卒業生の親睦と互助を図る取組を推進していきます。

10. 「世界一の九州がはじまる！」で川末教授が紹介されます

九州・沖縄のJNN系列で放送されているドキュメンタリー番組である「世界一の九州がはじまる！」（2022年6月5日）において、本学工学部川末紀功仁教授を中心とする研究グループがAI（人工知能）とAR（拡張現実）技術を駆使して開発した「豚の体重」を瞬時に可視化する装置である「豚の体重が見えるめがね」が紹介されます。



この装置は、2021年12月23日（木）に公表された、農林水産省の「2021年農業技術10大ニュース」にも選定されるなど、両手がフリーな状態で作業に従事できるため、養豚業における作業を効率化させ、今後の養豚業のあり方を大きく変える可能性を秘めていることから国内外から注目されています。

11. 在福岡アメリカ領事館広報領事のユキ・近藤・シャー氏が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義

令和4年6月8日(水)、基礎教育科目『現代アメリカ入門』の一環で、在福岡アメリカ領事館広報領事のユキ・近藤・シャー氏が宮崎大学を訪問し、学生約70人に講義しました。シャー広報領事は、国際社会で他国から理解、信頼、共感等を得るための力である「ソフトパワー」の基本概念を解説しつつ、アメリカや日本の代表的な「ソフトパワー」について紹介しました。その後、学生は12のグループに分かれて、それぞれ割り当てられた国の「ソフトパワー」を考え、発表するエクササイズを行い、最後に、外交官の仕事内容等について、様々な質問をなげかけ、シャー広報領事から丁寧にお答えいただきました。



受講した学生からは、「シャー広報領事から外交や国際政治について学ぶだけでなく、外交官としての仕事内容を聴いて、いつか海外での留学や仕事にチャレンジしてみたいと思った」等の感想があり、国際社会への興味や理解を深めていました。

12. 「次世代研究者支援室」のサイトを公開しました

宮崎大学は、「次世代研究者支援室」のサイトを構築し、令和4年6月8日より公開しました。本学では、令和3年度に科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の事業実施機関として採択されました。



今回公開したサイトでは、本事業についての概要や支援室長挨拶のほか、研究支援を受けている学生のインタビュー記事などを掲載しています。本事業は、令和3年度10月から令和7年度末までのプロジェクトで、農学工学総合研究科博士後期課程の学生（令和5年度春までの入学者）から希望者を募集しており、応募者の中から書類審査・面接を経て選抜した学生に、一人あたり年額最大286万円（生活費相当額216万円、研究費40～70万円）を支給することで、研究に専念できる環境を整備していくこととしていて、様々なキャリアパスにおいて活躍できる人材を育成する体制を構築していきます。

13. ようこそ後輩の皆さん大学生が母校の高校生に大学の魅力を紹介

—鹿児島県立曾於高等学校—

令和4年6月10日（金）、鹿児島県立曾於高等学校から64名（2年生38名、3年生19名、教諭6名）が宮崎大学を訪問しました。当日は、宮崎大学紹介映像などを交えながら大学全体の説明を行ったのち、教育学部永吉准教授が模擬講義を実施。続いて、同校の卒業生である宮田千穂さん（教育学部3年）、木原啓太さん（地域資源創成学部3年）と牟田はるかさん（農学部3年）



の3名が座談会形式で高校生からの質問に受け答えしました。3名は、高校と大学の違いや大学での過ごし方、コロナ禍におけるリモート授業の経験、アルバイトやサークル活動のことなどを交えてわかりやすく大学生活について紹介し、高校生からは「高校と大学の違いはなんですか？」「高校生のうちにどんな勉強をしていたらいいですか？」「大学の楽しいところはなんですか？」などたくさんの質問がありました。最後に、高校生は学生食堂で昼食を食べ、キャンパスライフを満喫していただきました。

14. 特定サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式を実施

令和4年6月13日（月）、特定サイバー防犯ボランティアの委嘱状交付式が宮崎大学にて行われ、宮崎県警サイバー防犯対策課の皆さんが立ち会う中で、宮崎県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課長の中武泰博氏が工学部の学生ボランティア9名に対して委嘱状を交付しました。



交付式に続いて、具体的に閲覧可能な状態にある偽サイトや詐欺サイトがないか、インターネット上でのパトロールを実施。怪しいと思われるサイトのURLを宮崎県警察本部安全部サイバー犯罪対策課に報告しました。

宮崎大学では、これまでも、工学部工学科情報通信工学プログラムの岡崎直宣教授や油田健太郎准教授が宮崎県サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザーを務めてきましたが、2017年度からは、情報通信技術に係る高い知識を持つ工学部学生もサイバー防犯ボランティアの委嘱を受けるようになり、これまでにのべ55名が委嘱を受け、今回の委嘱で合計65名となります。

15. 看護学科1年生30人が西米良村で実習

令和4年6月13日（月）、宮崎大学医学部看護学科の1年生30人が、西米良村（宮崎県）で実習を行いました。この実習は、令和4年度から新設した科目である「ひむか看護実習Ⅰ」の一環で実施するもので、この春入学した1年生62人が13のグループに分かれて西米良村内の事業所などを訪問し、村民との交流を通して、宮崎の人々の暮らしを学びます。同行した澤田浩武教授（医学部看護学



科）は、「医療が進歩した現在、医療機関に来られる患者様には様々な医療の選択肢があります。どのような医療方針を選択するかは、医療者と患者様が一緒に考えていきます。この実習では小さな村全体の中で、人々がそれぞれにどのように関わり、どのような役割を担っているのかを学びます。このことがこれから学ぶ看護の理解や考察の域を拡げてくれることに繋がれば」と、今回の実習への想いを伝えました。

看護学科では、令和4年度から「ひむか看護論（1年生対象）」「ひむか看護実習Ⅰ（1年生対象）」「ひむか看護実習Ⅱ（3年生対象）」を新設しました。これらの科目では、看護の対象となる人々の生活とその基盤となる「地域」に主軸を置きながら、看護学科の教員と西米良村だけでなく、地域資源創成学部や教育学部の教員、さらには自治活動や労働、報道、安全といった地域生活を支える方々にも協力いただきながら、意義ある講義・実習を行うことで、地域から必要とされる医療人材の育成に力を入れていきます。

16. 宮大生が企画・編集した「キャラいも」プロモーション動画を公開

宮崎大学地域資源創成学部企業マネジメントコースの丹生晃隆研究室（技術経営・ベンチャー）は、地域の企業が開発した商品を題材として実践的なプロモーションを行っていて、この度、「キャラいも」のプロモーション動画を公開しました。



「キャラいも」とは、南九州産のさつまいもを原材料とし、揚げたさつまいもに、手作りのキャラメルをコーティングした、株式会社イー ト（宮崎市）が自社開発した商品で、学生ならではの視点で、「キャラいも」の誕生から現在までを楽しくポップに伝える内容となっています。

17. 在福岡アメリカ領事館政治・経済領事のカサリン・ラファエロ氏が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義

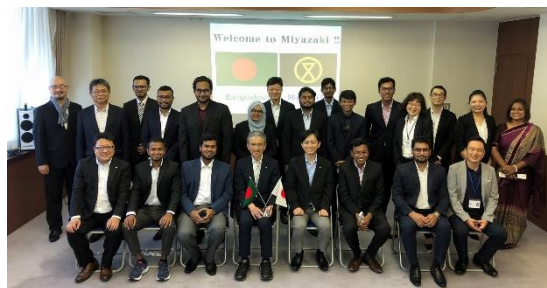
令和4年6月22日(水)、基礎教育科目『現代アメリカ入門』の一環で、在福岡アメリカ領事館政治・経済領事のカサリン・ラファエロ氏が宮崎大学を訪問し、学生約70人に通訳を交えながら英語で講義しました。カサリン政治・経済領事は、国際社会が取り組むべき喫緊の課題である「気候変動」に関する概況を説明しつつ、アメリカや日本の取り組みに

についても紹介しました。また、国際社会が協力して気候変動対策に取り組んで行く重要性にも言及しました。講義終了後も、数名の学生が教室に残って、英語と日本語でカサリン政治・経済領事に質問しました。カサリン政治・経済領事は、丁寧に一つ一つの質問に回答してくださり、学生は国際社会への興味や理解を深めていました。



18. 宮崎大学履修証明プログラム「B-JET Advanced Course」に留学中のバングラデシュ ICT 技術者の 8 名が宮崎市長を表敬訪問

令和4年6月22日(水)、宮崎大学が宮崎市および ICT 企業等と連携してバングラデシュの若い優秀な ICT 技術者の育成・導入を主導する「宮崎-バングラデシュ・スタイル」の一環で、(株)新興出版社啓林館の寄附講座を運営基盤に実施する履修証明プログラム「外国人 ICT 技術人材育成プログラム：B-



JET (Bangladesh - Japan ICT Engineers' Training program) Advanced Course」に短期留学中のバングラデシュ ICT 技術者 8 名が清山知憲宮崎市長を表敬訪問しました。

8 名は今月 8 日に宮崎に到着していて、現在は、宮崎大学の教員などから日本語や日本文化の講義を受けながら市内企業等でインターンシップを行っており、6 月末に同プログラムを修了後は、宮崎市および県内の企業に就業予定です。表敬訪問では、清山市長が「母国を離れて不安や心配があらうかと思いますが、今後羽ばたいていくこと、活躍していくことを心から願っています」と歓迎の言葉と述べ、ホサイン・サザッドさんが B-JET 生を代表して清山市長に対して日本語で「宮崎はとても住み心地が良い場所、景色がきれいで人はとても親切。宮崎の人たちとビジネスを盛り上げるために頑張っていきたい」と抱負を述べました。